

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171000336		
法人名	有限会社 風		
事業所名	有限会社 風 グループホーム たんぼぼ		
所在地	佐賀県佐賀市久保田町新田3475番5		
自己評価作成日	平成22年11月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigojohou-saga.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成22年12月13日	外部評価確定日	平成23年1月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>運営理念である「自由に」「気ままに」「ふわふわと・・・」を実現する為に、スタッフ全員が理念を理解し、実践に取り組んでいる。利用者個々の生活歴・生き様を知り、感じる事で、今を受け入れ「出来る事は自分で・出来ない事はみんなです」。利用者スタッフは時には口ケンカをしながらも「たんぼぼの家族の一員」として、個々が笑顔で生活出来るホーム作りに力を入れている。また、生活環境にも優れ、リビングに射し込む太陽の陽ざし、四季折々の田園風景、自然の恵みを体一杯に感じ元気が沸いてくるホームです。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>四季の移ろいが感じられる農村地帯、新興住宅地の一角に在るグループホームである。開設以来「ホームに籠らず、地域社会との関わりを大切にします」を実践している。散歩や買い物、外食の時等に顔見知りになった地域住民や店の人と挨拶や言葉かけが、ごく、自然に行われている。近所の子どもが両親が留守の時、遊びに来て利用者と一緒に過ごしたり、職場体験学習に来た中学生が、高校生になっても顔を見せたり、ボランティアに来たりもしている。開設5年目であるが、職員の異動もほとんどなく、利用者も開設以来、ほとんどの方がここで生活している。それだけに、笑顔と家庭的な雰囲気、生活の主役は利用者であることが実感出来る。面会に来た家族が野菜を持ってきたり、まっすぐに台所に立ったりする事も珍しくない。市からの敬老会の祝い金を家族が寄付し、それを使って記念の枕木トータムポールを建てたりもしてある。職員は、利用者のこれまでの歴史をひもとき、尊厳を大事にし、希望を受け入れ、意思疎通を十分に図りながら、利用者の生活ペースに合わせた支援が行われている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「ホームに籠もらず地域社会との関わりを大切にします」人と人との関わり必要性を理解し地域の中で生活出来るよう実践している。	事業所開設時から、地域と共に在るホームづくりを目指しており、全職員が理念を意識している。日常の支援、毎日の引き継ぎ会、定例の会議でも運営理念を意識しながらのケアである。日常の支援でも、地域との関わりを出来るだけ持つように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で買い物・散歩・行事への参加・地元中学校職場体験受け入れ。	地元の自治会にも加入し、地域との繋がりが濃い。買い物や散歩時の交流だけでなく、近隣の方と一緒に野外料理の機会があったり、母親が帰宅するまでの間、子どもがホームに来て過ごす事もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職場体験受け入れ。買い物や散歩に頻回に出かけることにより認知症でも支援があれば自由に生活出来る様理解・支援に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部の方々の考え、意見を聞くことで、ややもすれば偏りがちな支援の見直しが出来サービスの向上につながっている。	地域の代表として、区長や民生委員も交えての会議が開かれているが、行事の報告やそれに関する意見や質疑が多い。日帰り旅行の反省など地域や家族代表の意見が、サービスの向上に繋がる等、地域と事業所の意見交換の場にもなっている。	2ヶ月毎での開催を目指し、地域からこれまで以上にサービスに活かすための率直な意見をもらえるような話題や会議の持ち方、開催時期の工夫などの再検討を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	密な連絡が取れているとはいえないが、顔見知り程度の関係は出来ている。今後は、協力関係が築けるよう取り組んでいきたい。	生活保護との関係もあり、行政に出向く機会もあるが、事業所からの情報提供や課題解決のために協働しての取り組みなどが十分とはいえない。	行政に事業所の実態をよく知ってもらい、相談にも実直に対応してもらえる様に、運営推進会議の機会だけでなく、普段からの行政との積極的な関わりを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを製作し理解に努めている。「スタッフは自分がされて嫌な事・言われて嫌な事はしない」ケアを実践している。	勉強会や外部研修等の機会も通じて、拘束の弊害を改めて認識し、ケアの工夫や見守りで対応している。玄関は自由に出入りが出来る。また、介護エプロンの使用も見られず、「だめよ」「ちょっと待って」の言葉は禁句にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを製作し理解に努めている。「スタッフは自分がされて嫌な事・言われて嫌な事はしない」ケアを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修等に参加し理解を深めるよう努めているが支援活用には結びついていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明し同意を得ている。改定等の際は家族会を開催し、説明し理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会・面会時御家族の意見・要望を聞く機会を設け運営に反映させている。又外部の相談機関を紹介している。	面会時に職員が笑顔で対応するので、家族は遠慮なく相談したり、意見を述べる事が出来る雰囲気である。声にならない声はないかと配慮している。家族会からの意見も運営に活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の勉強会でスタッフの意見・提案を聞く機会も設けている。全員が運営に関わっている意識を持っている。	事業所開設以来の職員がほとんどで、自由に意見を出し合い、運営に活かしている。また、管理者は「なあ、なあ」のなれ合いの雰囲気にならないように職員を指導している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務扱いでの研修参加・研修費用の会社負担・業務手当等で向上心が持てるよう働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数・に能力に応じた研修等を紹介に参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	機会は特に設けてはいないが、研修会等を通じ交流を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活歴・家族例・性格等情報収集に努め、話を聞き、受容し、安心感を持っていただけるようなケアに重点を置き関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護の苦労話と聞き入れ、労いの言葉をかけることや、御家族の思いを受け入れることで関係つく英に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族・主治医の意見を聞き、必要なサービスな利用の利用に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の主体は利用者であるべき事をスタッフは理解し、共に暮らす関係を築けるケアに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプラン作成時に御家族の意見を取り入れる。ケアのあり方を家族会等でみんなで考える関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来るだけ主治医を変えないことで、受診時に馴染みの人と逢えたり、自宅を訪ねたりすることで関係継続が出来る様努めている。	散歩の時、顔見知りになった近所の人と挨拶や言葉を交わしたり、買い物に職員と一緒に出かけている。受診の際、受診する本人以外の利用者也数人が同行し、自宅付近を訪ねる事もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の介助をしたり、食べこぼしを拾ったり、トイレの場所を教えたりと自然な形で関係が出来上がっている。その行為に対しスタッフは感謝の言葉をかけている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ居宅サービスに連絡、調整し相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	口頭で聞きだすことは困難な場合が多いため、本人のこれまでの暮らし方や、日々の生活の中から「思いや意向」が把握出来る様努めている。	入居時は勿論の事、日常の会話、表情、様子等からも思いや意向を把握する事に努めている。「スキル細工をまたやりたい」と職員に言っている利用者もおられた。また、生活歴を知り、それを支援に取り込んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族からの情報収集や日々の生活の場面場面から把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の観察ポイントをスタッフが理解する事で現状の把握に努め、申し送りノート通じ情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	勉強会時各居室担当を中心とし他スタッフより意見を吸い上げ介護計画を作成している。	本人、家族の希望や意見を聴き、各居室担当者をはじめ全職員からの意見を集約しながら、あくまでも利用者本位の計画が作成されている。定期的な評価、見直しにより、利用者の現状に即した計画である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過記録に記入している。又必要な情報は申し送りノートに記入し、情報の共有することで、計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療保険を使っでのサービスの利用等、必要に応じた支援提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中に出かけることで、暮らしと楽しむことが出来る様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。	利用者や家族の希望する病院での受診である。協力医療機関からの住診もある。また、何でも相談できる関係もあり、家族や事業所にとっても安心できる存在である。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各主治医との関係がとれており適切な受診等の支援が受けられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報の交換、相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームの思いや・力量は家族会等で話す機会を設けている。早い段階からの話し合いは出来てはいないが、方針が共有できている御家族とは、主治医と相談し支援体制を築くよう努めている。	重度化した場合、事業所として出来る事と出来ない事を伝え、家族と納得の出来る話し合いを持っている。これまでは看取りケアの事例はないが、職員が心配するよりも、利用者が大人でしっかりしていると感じられたケースがあった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、勉強会等で研修することで実践力が身につくよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自主訓練は行っているが、協力体制は築けていない。	消防署の指導を得ながら、年2回の火災時を想定した避難訓練を実施している。重要事項の非常災害時の対応に、近隣との協力関係を謳っているが、それが実現されていると言えない。	夜間、職員だけの誘導の限界を具体的に確認し、地元消防団や地域住民の協力を得ながらの避難訓練等災害対策の実現を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳をもった言葉かけ・対応を心がけている。全入居者が利用年数が高い為、親しみある支援がプライバシーを傷つける事に気がつかない傾向ある為、勉強会で見直しケアを行っている。	尊厳を大事にすることをケアの基本にしている。接遇をはじめ、互いを尊重した言葉かけ等を、管理者はよく指導している。個人情報きちんとして守られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べ物を選んだり・行きたい場所を決めたり、希望の表出が出来やすい場面を多く持つよう心がけ支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合った生活を心がけている(起床時間・食事時間)希望に添えているかは読み取れない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型や髪の色は本人の希望を聞き入れ行っている。外出時や催し物があるときは、おしゃれを楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ている。	職員もそれとなく見守りながら、利用者と一緒に食事をしている。和やかで家庭的な食事風景である。食事前には、利用者も自分に出る事をして、野菜を選んだり、魚をさばく利用者もいる。献立表は、職員だけの計画になっている。	利用者の嗜好を取り入れた高齢者向けの献立であるが、栄養バランス等を含めて、献立表を管理栄養士等にみてもらう事も期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々にあった食事形態・器にて提供している。必要時は、イン・アウト表にてチェックをおこない支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来ている。訪問歯科の指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時のトイレ誘導にて失禁を減らしトイレで排泄出来る様支援している。	一人ひとりの排泄習慣を把握し、さりげない誘導で排泄の自立支援に努めている。夜間は、ポータブルトイレを使用している。失敗があっても、言葉かけには十分な配慮がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がもたらす弊害を理解し、食事や運動量で自然排便出来る様働きかけている。又個々に合った下剤にて無理のない排便に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	家での入浴時間に近づけるよう支援しているが、入浴順番等はホームの都合で行っている。	一人ひとりの希望による入浴で、ゆっくりと入浴を楽しんでいる。毎日、入浴する方や、仲良しの方と二人で入られる方もいる。入浴がおっくうな方には、間をみたり、言葉かけを工夫して対応している。冬場は脱衣所が寒くないように安全な暖房器具を使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決まっておらず、夕食後よりゆっくりお茶と飲んで過ごしたり、寝具や室温を調節することで安眠出来る様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	出来ている。主治医と相談し、薬はなるべく減らせるよう症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割分担が出来ている。又、能力が生かせる場面を作るよう心がけ支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外に出る機会は週に3~4回と持ててはいるが、その日の希望とはいえない。普段行けない様な場所へ出かける時は、スタッフを増やして対応している。	天候を見計らって、ホームの近くの住宅街を散歩している。また、タンポポ道と名づけている車の少ない農道を、散歩コースにしている。一緒に買い物に行く機会も多い。公園やバールン見学に行ったり、家族と一緒にの遠出もある。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じ支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば支援しているが、特に働きかけではない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	臭いには特に敏感に対応するよう心がけている。リビングからは畑や花壇・洗濯物が一望でき生活・季節を感じる事が出来る。	昼間は居間で皆と一緒に過ごす方がほとんどであり、ソファやベットも用意されている。利用者手造りの手芸作品が飾られ、熱帯魚も飼われている。採光は柔らかく、雑音がない。台所からの調理の匂いや音は、五感を刺激している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人がけ・数人がけのソファを配置していることで思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望の物があれば持込自由。本人の作品・家族の写真などを飾る事で居心地良い居室作りの工夫をしている。	各居室がその人らしい構成になっている。趣味の作品を飾っている方もあれば、家族の写真、使い慣れたテーブルや椅子、整理ダンス、仏壇、おしゃれな帽子や洋服、その他、いろいろな物が見受けられる。また、各居室とも清潔で、掃除が行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全利用者が入居年数が長い、トイレなどは互いに教えあわれる、居室を間違えても余り腹を立てない現在、工夫は行ってはいない、もともとがバリアフリーの作り、安全な環境。自由に生活されている。見守りを十分行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない